

「世界津波の日」2024 高校生サミット in 熊本

“熊本の教訓を世界へ、そして未来へ”

～熊本地震や集中豪雨など大規模自然災害を経験した熊本で、命を守る対策と創造的復興を学ぶ～

開催要項(案)

1 開催趣旨

11月5日の「世界津波の日」は、津波の脅威と対策について理解と関心を深めることを目的に、2015年12月の国連総会において日本が提唱し、我が国をはじめ142か国が共同提案を行い、全会一致で採択されました。翌2016年からは、世界各国の高校生が津波の脅威と対策について学ぶ場として、「世界津波の日」高校生サミットが開催されています。

熊本県では、世界最大級のカルデラを持つ阿蘇の雄大な草原、外海内海に面した島々や長い海岸線、1000m級の山々が連なる九州山地とそこを源流とした河川が潤す大地など、人々は豊かな自然と共に暮らしています。

私たちは、この豊かな自然の恩恵を享受する一方、地震や豪雨、火山噴火など脅威にもさらされてきました。2016年に震度7の激震に2度見舞われた「熊本地震」や、「2020年7月豪雨」で多くの尊い命が奪われ、家屋倒壊等により生活の場が奪われるなど甚大な被害が発生しました。

これらの大災害に対し、私たちは、単に元の姿に戻すのではなく、更なる発展に繋げるという「創造的復興」を掲げ、日本全国、そして世界中から寄せられたたくさんの支援を力に、復旧・復興に取り組んできました。様々な災害を経験した私たちには、この経験や教訓を世界に発信し、継承していく使命があると考えています。令和6年能登半島地震においても、被災者支援や一日も早い復旧・復興の実現に向け全力で支援をしています。また、近い将来、発生が危惧される「南海トラフ地震」に備え、本県は、新たな県防災センターを中心に、九州を支える広域防災拠点機能の強化に取り組んでいます。

世界では2023年だけでもトルコ南東部地震、モロッコ地震、ハワイ州マウイ島の山火事、リビアの大洪水など、いずれも多数の犠牲者・被災者を出す大災害が頻発しています。また、気候変動の影響と言われる災害も発生しており、世界の持続可能な開発を進める上で、災害による被害の軽減は国際社会の重要な課題となっています。

私たちは、こうした世界共通の脅威である自然災害に対し、経験や教訓を通じて培った知識や技術を、国境を越えて持ち寄り、相互理解と連携により、防災・減災、国土強靱化に取り組む必要があります。特に地震をはじめとする災害の頻発国である日本として、災害の経験や教訓、それに基づく防災の取組の知見を世界に共有し、世界の災害リスクの軽減に貢献する意義は大きいと考えます。

本年は熊本において、地震や津波などの自然災害による被害を最小化し、国土強靱化を担う将来のリーダーの育成と世界各国の「きずな」を一層深めることを目的に、「世界津波の日」2024 高校生サミット in 熊本を開催します。

2 主 催 熊本県、熊本県教育委員会、熊本市、熊本市教育委員会

3 開催日 2024年10月23日(水)～10月24日(木)

4 会場 熊本城ホール(熊本市中央区桜町3-40)他

5 参加者 約500名(高校生及び引率者)

〔 海外参加者 約250名
国内参加者 約250名(熊本県含む。) 〕

6 使用言語 英語

7 参加費 2泊3日(2朝食1昼食)27,500円程度(宿泊先により金額は異なります)

〔 【内訳】 昼食代:1人1,500円程度
宿泊費:2泊3日(10月22日～23日泊 2朝食付き)
1人26,000円程度
※宿泊費はシングル利用料金をお示ししています。部屋タイプにより
異なります。
※10月22日(火)の昼夕食は各自で手配をお願いします。
※10月23日(水)の夕食はレセプション(無料)を予定しています。 〕

8 宿泊施設 高校生サミット会場近郊のビジネスホテルを予定しています。

9 交通手段 10月23日のサミット会場からレセプション会場までの移動については、主催者誘導による、徒歩移動となります。

10月24日高校生サミット終了後のサミット会場から熊本空港や熊本駅までの移動については、主催者にてバスを用意します。

上記以外の移動については、各自で対応をお願いします。

10 日程 10月23日(水)

〔午前〕分科会

〔午後〕開会式、スタディツアー報告、分科会

〔夕方〕レセプション

10月24日(木)

〔午前〕記念植樹・記念碑除幕式、総会・閉会式

※プログラムは現時点の予定であり、変更となる場合があります。

11 テーマ・分科会

(1) 全体テーマ

“熊本の教訓を世界へ、そして未来へ”

～熊本地震や集中豪雨など大規模自然災害を経験した熊本で、

命を守る対策と創造的復興を学ぶ～

(2) 分科会の分野

- ・ 自助・共助で**防災**を考える

災害はどこでも起こりえます。地域の災害リスクを理解・予測し、日常的に備えるとともに、命を守るために必要な行動を考えます。

- ・ 自然との共生で**減災**を考える

自然は人々の生活に恩恵をもたらす一方、幾度も災害を引き起こしてきました。自然を守りながら被害を回避・軽減する取組みを考えます。

- ・ 大規模災害を教訓として**創造的復興**を考える

災害からの復旧・復興について、単に元に戻すのではなく、将来の発展に繋がるような創造的復興を考えます。